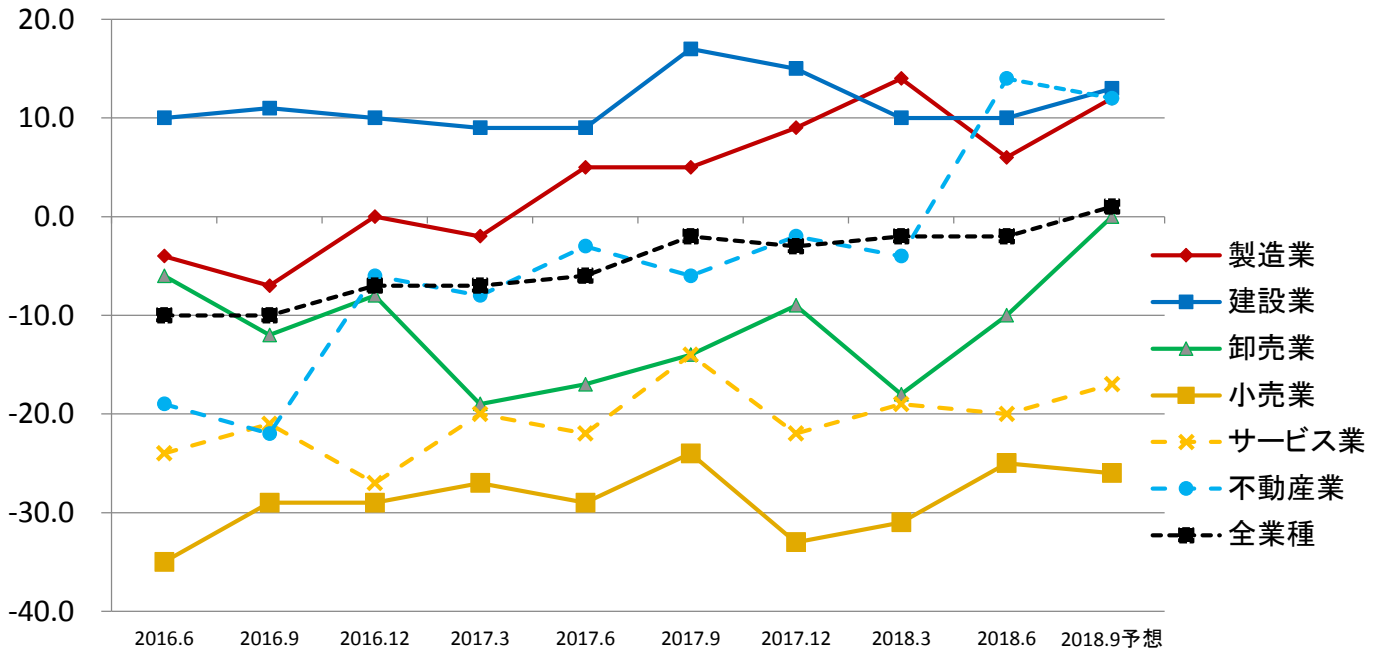


福生市商工会 経営だより

1. 多摩地域の小規模企業業種別業況判断DIの推移



※製造業・建設業は19人以下を、卸売業・小売業・サービス業は4人以下を小規模企業としています。

出典：多摩信用金庫 多摩けいざい No.85

2. 業況判断DIの分析

全業種は前月から変化がなく横ばいです。不動産業が18ポイント増で3月期から6月期に好調です。また、卸売業、サービス業、小売業も回復傾向がみられます。建設業は東京オリンピックや集合住宅の大規模修繕工事の需要から引き続き好調を維持しています。製造業は今回ポイントを落としましたが、引き続き好調です。小売業は回復傾向といえども苦戦を強いられています。人件費の高騰や、天候不良による野菜価格の変動、酷暑日の増加などが売上を左右しています。

3. 中小企業診断士の一言

2019年10月に予定されている消費増税と軽減税率導入までおよそ1年となってきましたが、軽減税率に対応したレジへの変更が思うように進んでいないようです。経済産業省が軽減税率対応レジへの変更に関する補助制度を設けていますが、2018年8月時点で当初想定の2割程度しか活用がされていません。この制度は2019年9月末までとなっており、事業者の中には、度重なる増税延期で実感がわいていないと回答する方もいる状態です。しかしながら、いずれ増税は実施されるわけで補助制度が活用できるうちに準備しておきましょう。このように、補助金・助成金で活用できる制度が多く準備されています。商工会に相談しましょう。

(軽減税率：生活必需品などは8%のまま税率を据え置くなど、低所得者への負担を緩和する措置であるが、レジの改修が必要となる場合が多い)

4.主要業界のトレンド

【全体】

2017年度から見ると、小規模事業者の業況は総じて改善傾向にあると報告されています。利益も緩やかではありますが全体的に見れば回復傾向にあります。しかしながら、中規模以上の企業と比較すると売上高の伸び悩みが散見され、まだまだ設備投資まで踏み切れない状況の企業が多いことも事実です。小規模の利点を生かし、小回りの利く顧客対応をさらなる強みに据えて企業の成長戦略を立てていきましょう。

【製造業】

測定や検査の結果を従来の手書き記録からパソコン入力にすることで、日付や時間などの記入ミスを軽減し、データ化を実現することで統計的分析に活用している企業があります。品質劣化原因の傾向なども分析でき、ピンポイントで作業効率のアップにつながる対策に結び付けやすくなります。大きな設備投資ではなく、パソコンの表計算ソフトを活用するだけです。手書き作業の効率を気にされている企業は、ぜひ商工会の専門家派遣などをご検討ください。

【サービス業】

サービス業は、たとえ高品質でも目に見える商品がないため品質の具合を顧客に理解してもらうことが難しいとされています。しかしながら経験年数を表記したり、丁寧な接客を心掛けていること、利用者の声などを文字で表現することで、サービス品質を可視化することができます。小さなことですが、他店との差別化を考慮し、お店の強みを形に表現してみてもはいかがでしょうか。

【小売業】

最近では、御用聞きサービスや宅配サービスを多く展開している企業が見受けられます。高齢者の一人暮らしが非常に多くなっている現状を踏まえると、商品のお届けの他に、高齢者の健康確認や身の回りのお手伝いなどを実施していく中で必要品の提案などに活用していく例も少なくありません。地域に存在する利点を活かし、細かな気配りで大型店に対抗していきましょう。

【建設業】

建設業界は空前の人手不足であり、昨今では外国人労働者や技能実習生を招き何とか対応している企業も多くみられます。外国人労働者は日本との文化の違いから、今までの労務管理では対応しきれない場合もあります。就業規則や賃金制度など、制度説明を求められることがあります。少しでも不安がある場合は、商工会に相談し、専門家のアドバイスを求めてはいかがでしょうか。

5.小さな企業の新たな取組みのためのヒント

IT導入補助金の3次公募が始まりました。IT導入補助金のホームページでは、「どのITツールを選ぶか」の前に、ホームページ上の経営診断ツールへ回答することで、自社の課題や活用すべきITツールの機能を提供しています。「いきなりITツールと言われても」という方は、経営診断ツールだけでも活用し、自社の経営課題を確認してみてもはいかがでしょうか。IT導入補助金は、申請などの手続きはツール提供企業側で担いますので、細かい知識がなくても大丈夫です。ご興味のある方は、ぜひ商工会にご相談ください。